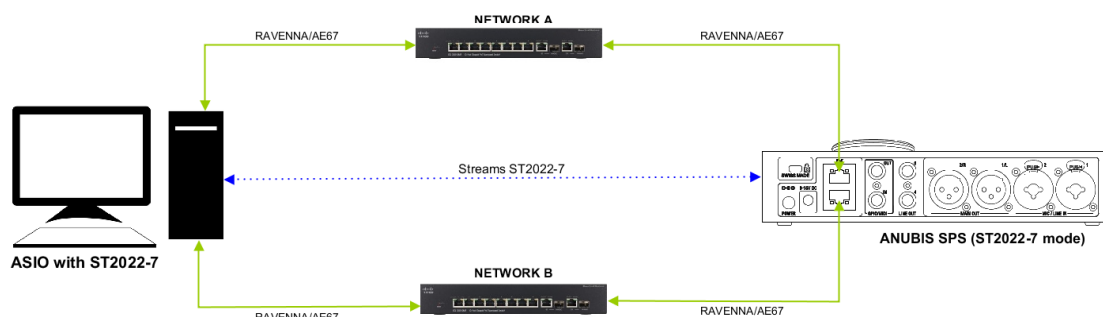




Merging RAVENNA ASIO / Merging Audio Device : ST2022-7 Setup



必要なもの

- Merging RAVENNA ASIO Driver (V13以上) またはMerging Audio DeviceがインストールされているPC (Windows)。詳細については、このページの指示に従ってください。
- ST2022-7対応の AES67 / Ravenna 互換デバイス (ドライバーにASIOクロックを使用するには、ネットワーク上にMergingデバイスが必要です) Anubisでは、ファームウェア V1.1.8b44345以降が必要です。Horus / Hapiは、ファームウェアV3.9.9b44345以降が必要です。
- 適切に設定された AES67 / Ravenna 互換ネットワークスイッチがデバイスとコンピューターの間必須です。
- "ASIO ST2022-7モード" の認証キーについては、keys@merging.comまたはMerging社製品販売パートナーにお問い合わせください。
- PCには、Google Chrome がインストールされていて、標準のブラウザとして設定されていることを確認してください。

手順

1. 認証キーの入力

コントロールパネル > MT Security Settings を開き、Key ファイルを Import で読み込んでください。

KeyのImport後、Authorization のリストで "ASIO ST2022-7" オプションがPermanentになっていることを確認してください。

2. デバイスのIPアドレスの設定

この例では Anubis SPS で設定を行います。
Mergingロゴを長押ししてSettingsにアクセスします。



General > Network を開きます。

ST2022-7 mode をアクティブにします。

Interface 1 と 2 にIPアドレスを設定します。

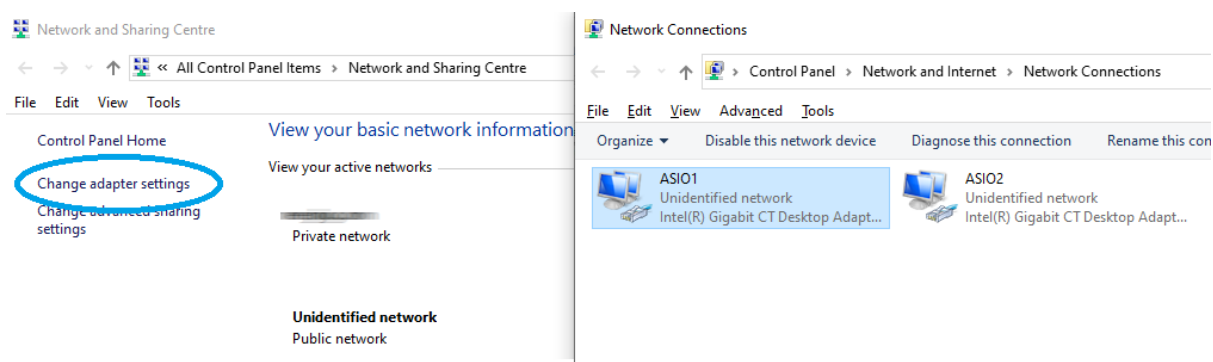
Note : IPアドレスはIPのコンフリクトを避けるため異なるレンジを使用してください。

設定を終えたら Apply & Reboot を押してください。

3. PCのIPのアドレスの設定

この例では、コンピューターに2つのネットワークアダプターと1つのAnubis SPSデバイスがあることを前提としていますが、2つのデバイスで実行する場合も同じ手順が適用されます。

コントロールパネル > ネットワークと共有センター を開き、左にある “アダプター設定の変更” をクリックします。

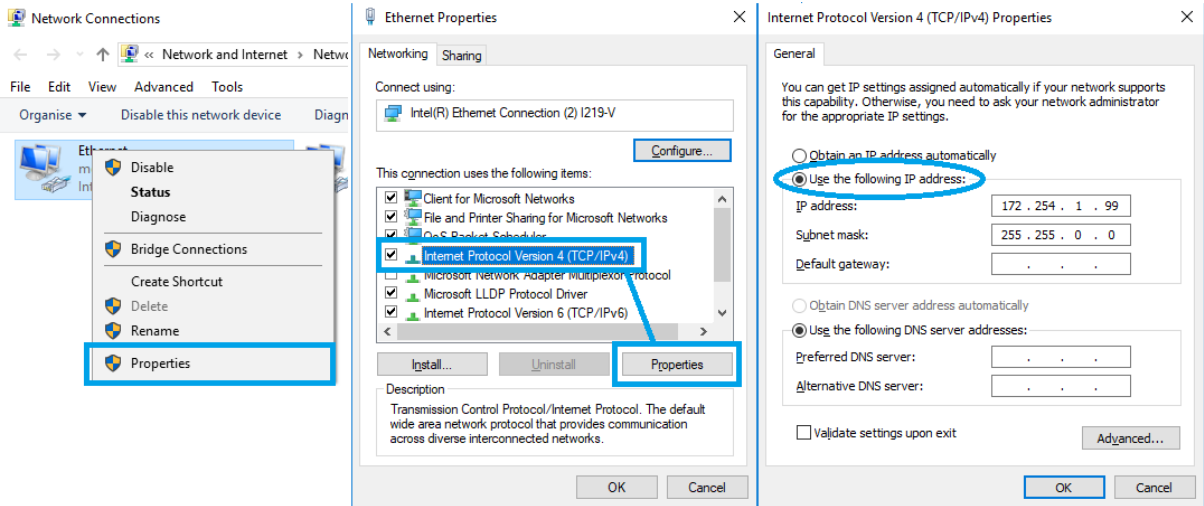


アダプター アイコンを右クリックし、“プロパティ” を選択します。

“インターネット プロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)” を選択し、“プロパティ (R)” をクリックします。

”次のIPアドレスを使う” にチェックを入れ、IPアドレスを入力します。アドレスはAnubis SPSの Interface 1 に設定したアドレスと同じレンジに設定してください。

例 : IPを 172.168.0.10 に設定し、Anubis Interface 1 を172.168.0.20 に設定した場合、Windowsではサブネット マスクを自動的に設定します。



4. Merging RAVENNA ASIO または Merging Audio Device ドライバーの設定

Merging RAVENNA ASIO または Merging Audio Device を開きます。

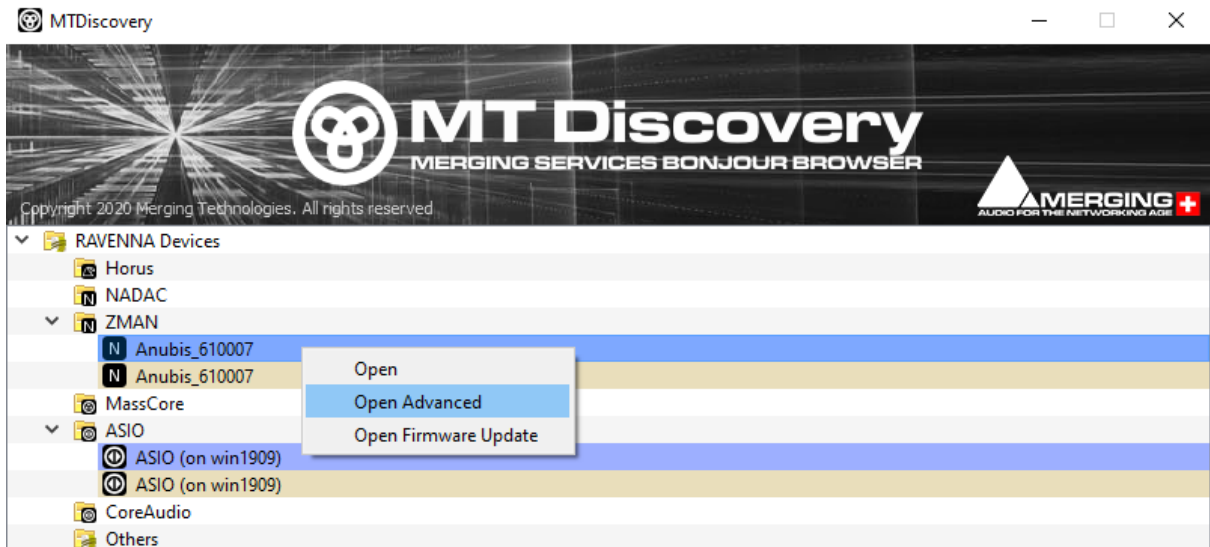
RAVENNA/AES67 Settings で、Interface 1 に接続しているネットワーク アダプターを選択します。

Interface 2 に接続しているネットワーク アダプターを Secondary adapter に選択します。

Apply をクリックします。

5. Advancedページでオーディオ コネクションを作成する

MT Discovery を開きます。



Anubis を右クリックして、“Open Advanced” を選択します。



ブラウザが開いたら、“General Settings” ページを開き、“ST2022-7 mode” をアクティブにしてください。

“Session Source” ページを開き、ソケット アイコンをクリックして新しい “Source” を作成してください。

“Output Interface(s)” を “Interface 1&2(ST_2022-7)” に設定してください。

その他の設定は（チャンネル数, Inputs, など）通常通り設定してください。

General settings | PTP | Session sources | Session sinks | Ins/Outs | I/O Router | Statistics | NMOS | System

Create new source

2022 Anubis_ST2022-7 Source

Configuration

Enabled

IO Stream

Name Anubis_ST2022-7 Source

Description

Output Interface(s) Interfaces 1&2 (ST_2022-7)

Auto-unicast retrieve unicast address port from sink (RTSP)

Address 239.1.65.181

Address sec 239.1.20.13

次に同様の方法で ASIO デバイスの “Advanced pages” を開きます。

“General Settings” ページを開き、“ST2022-7 mode” をアクティブにしてください。

“Session Sink” ページで新しい “Sink” を作成します。

“Source” のドロップダウン メニューで Source を選択します（システムはSourceがST2022-7であることを認識します）。

General settings | PTP | Session sources | Session sinks | Ins/Outs | System

Create new sink

Anubis_ST2022-7 Source

Configuration

IO Audio Device

Label

Description

Source Anubis_ST2022-7 Source

Delay (samples) Anubis_ST2022-7 Source

Ignore refclk GMID sap://Anubis_ST2022-7 Source

Channels Channel count 8

Count adapted

ASIO Input 1 - ASIO Input 8

Session Info

Session status Connected

RTP status Receiving

Session name Anubis_ST2022-7 Source

Playout delay 512 (~10.7 ms)

RTSP Host 169.254.65.181

Interface 1

RTP status 0x10: receiving RTP packets

Clock domain PTPv2 0

Address 239.1.65.181/15

Payload 98 L24/48000/8

Interface 2

RTP status 0x10: receiving RTP packets

Clock domain PTPv2 0

Address 239.1.20.13/15

Payload 98 L24/48000/8

▶ SDP



以上で Anubis の Source は ST2022-7 で ASIO に接続されました。左のペインに両方のインターフェースのコネクション ステータスが表示されます。

ASIO Session Source と Anubis Session Sinks で同様の操作を行い、ASIOからAnubisへのコネクションを行ってください。

Notes :

- Advanced ページでマニュアルで接続を行うのではなく、NMOSサーバーを通してコネクションを行うことも可能です。
NMOS には認証キーが必要です。